13. 1934 岸田久吉, 興安嶺の蜘蛛〔動雜, 第46卷. 第553號〕

14. 1936 齋藤三郎 眞正蜘蛛目〔第一次滿蒙學術調査研究團報告〕

15. 1938 Saito, S., Arachnida of Manchoukuo III 〔Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. XV.〕

16. 1940 關口晃一, 滿洲産の蜘蛛數種〔Acta Arachnol. V, 1.〕

17. 1940 八木沼健夫, 滿洲國黑河省産の蜘蛛〔Acta Arachnol. V, 4.〕

フィリッピン, ジャバ 及ボルネオ産のトゲグモ數種に就いて

仲 辻 耕 次

東京農業大學動物學教室

吾國に敵對せる南方共榮圏内の諸國も吾が忠勇無比なる皇軍の奮戰に依つて降服し今や南方諸國は更生の第一歩を踏み出した事は誠に慶賀に堪へません。是等の占領せられた南方諸國の蜘蛛も吾々に取つては珍稀なものが非常に多いのであるが 其の内筆者の手元にあるフイリツピン諸島, ジヤバ及ボルネオ産のトゲグモ數種を紹介して同好諸君の御參考に供し度い。是等の標本は農學士明石哲三畫伯の採集品にして東京農業大學標本室の所藏のものである。内一種ボルネオナガトゲグモは慈惠會醫科大學講師羽根田彌太氏（昭和13年）が採集せられしものを理學士高島春雄氏より惠贈せられしものである。玆に前記採集に從事せられたる明石哲三氏と羽根田彌太氏並に高島春雄氏に厚く御禮申上る次第である。

記載は種名を判定し得る程度に簡單に主として腹柄の印刻に就て概ね岸田久吉氏の印刻記載法（Acta Arachnologica Vol. II, No. 4, p. 139. 1936）に依て記載する事とした。

Family Argiopidae

Genus *Tatacantha* Simon

1. *Tatacantha clavigera* Gebel, 1863　カイトゲグモ（第3圖, 第4圖）
〔Zeitschr. f. d. Ges. Naturw., V. 21, p. 307〕

♀

色彩　頭胸部は暗褐色 歩脚及刺は赤褐色又は黒褐を呈する。腹楯は黄色地に暗赤褐色の印刻を具へ，腹面には多數の小い黄色斑點を疎に存してゐる。

標徵　腹楯は後廣の六角形，前縁は截形，後縁は後曲（ ‿ ）してゐる。第1—2 印刻列は僅に後曲する一線をなし，第1—3印刻は前曲する。何れも等大の卵形である。第3—5印刻は直線上にあり，第5印刻は第1刺の線の稍後にある。印刻は前位のもの程小である。第6—7印刻は第2刺と同一線にあり等大の圓形，第8は微小，第9は僅に前者より大きい印刻にして正圓形である。尚後縁に沿つて8個の微小印刻が存する。第1刺は腹楯の前側縁の中央より僅に後方に存する短小刺である。第2刺は非常に細長にして後外上方に 60 度向いてゐる。其の長は腹部長の殆ど3倍に等しく其の頂端は内方に僅に曲り且つ黑毛密生して，一見舟の櫂又はゴルフ用のクラブを想像せしめる。第3刺は第1刺の 1.5 倍長で大きい。紡疣前の小隆起は存しない。

背甲長 2.8 mm，幅 2.7 mm，腹部長 6 mm，幅 9 mm，第2刺長は 17 mm.

採集地　バシラン島アトンアトン（XII. 9. 1928. 明石哲三氏採集）

Genus *Thelacantha* Hasselt, 1882.

2. *Thelacantha mammosa* C. Koch, 1845　チブサトゲグモ（第1圖）
〔Arachn. XI, p. 57〕

♀

色彩　非常に變異に富んだ種類であつて多數を採集した人は其の色と斑紋の異つてゐるのに驚く次第である。背甲は暗褐色又は黑褐色にして他は黑條が3條縱走してる事がある。

口部は殆ど背甲と同色。歩脚は褐色地に濃淡があり又暗色の輪がある。腹楯は黄褐色時に黑色の場合もあり前者の場合には時々褐色又は黑色圓に取り圍まれたる灰心斑紋をなす事がある。腹面は淡黄褐色乃至黑色にして時には不整の黑斑紋を有つてゐる事がある。

標徵　腹楯の各刺は乳嘴狀の砧上にある。但し第1刺のみは砧の發達は充分で無い。第2と第3の兩刺は共に判然としてゐる。各刺には小齒が存してゐる。第I—II印刻は殆ど同一線上の横列であり，前者は大きく楕圓，後者は小さく

て內小の倒卵形である。第3—5の3印刻は外曲の弧上に位し大きく，外大內小の三角形をなし大きい。第5印刻は第1と第2刺の中間に存してゐる。第6—8印刻は斜向直線をなすか又は僅に外曲弧上にある。何れも等大。第6印刻は第2刺線上に存する。第7—9の印刻は前曲弧上に位し，第9印刻は最小である。中域の印刻は梯形を呈し後幅>前幅　何れも卵形又楕圓形である。微細印刻は前3中2|3|2後1又は2である。腹楯の亞側緣部に小砧が多く存在してゐる。

背甲長3.5mm，幅3.5mm，腹部の長6mm，幅8.1mm(第1刺を含む9.6mm)

採集地　ジャバ・バーゲン湖附近（III. 28. 1930)，ワテスカンボン（I. 25. 1930)，ルソン島ロス・バニオス（VIII. 22. 1929）明石哲三氏採集。

Genus *Gastercantha* Sundvall, 1833.

3. *Gastercantha kuhli* C. Koch, 1837 トゲグモ（第5圖）

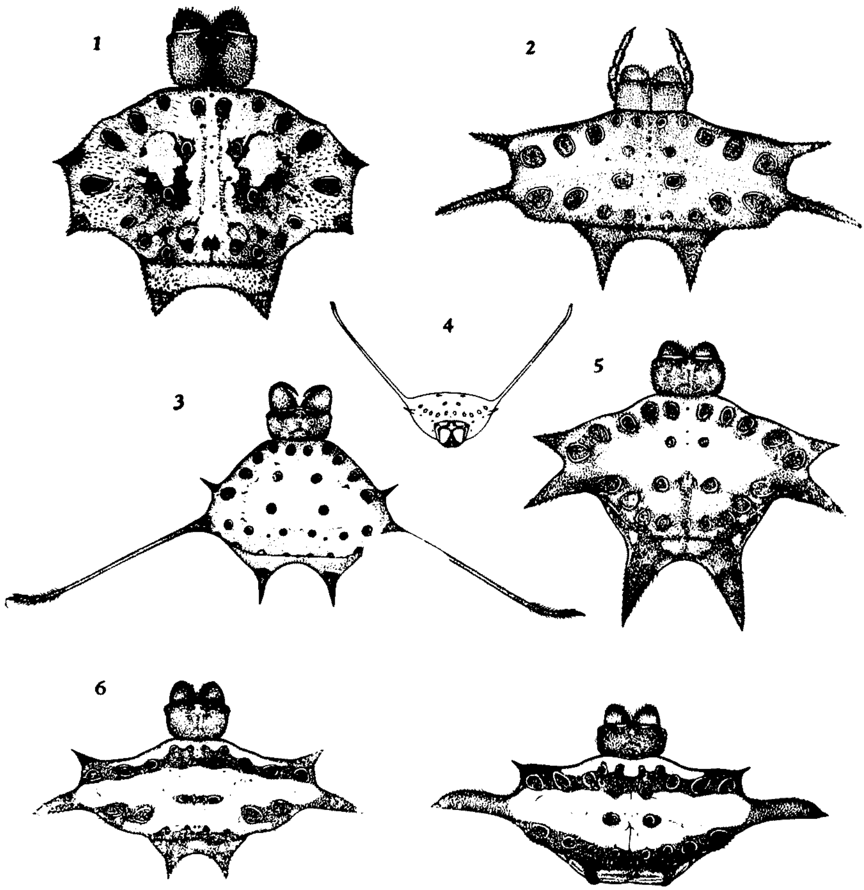
〔Arachn. IV, p. 10〕

色彩　非常に變化のある種類であるが1例を示すと，背甲は黑褐色又は赤褐色にして口部及步脚も概ね同じ色である。腹楯は殆ど黃色又は亞側緣即第1—2刺間が黑色である。腹面後部の橫溝のある部分には小黃點を疎に具へてゐる。各刺は暗赤褐色又は黑色を呈してゐる。

標徵　腹楯は前廣後狹にして前緣は前曲するが强く無い。中央部はむしろ僅に後曲氣味である。第1—2の2印刻は僅に後曲の1橫列をなし，第1—3印刻は前曲の弧上に位する。第1と第2は內小の倒卵形で等大である。第3—5の印刻も前曲弧上にあり，第4と第5は第1刺の前後に位し，何れも內小の卵形を呈してゐる。第6—8印刻の後緣はむしろ前曲性で，第6印刻は第2刺の內方にあり第4印刻より僅に中線に近寄つて存する。第6印刻は第4印刻と略等大にして後部のもの程漸小となる。第8—9の印刻の橫列は端直な直線をなしてゐる。中域の4印刻は前狹後廣の梯形，前印刻は小さく正圓に近く，後印刻は稍大きく橫長に延びてゐる。微小印刻の排列は前3中2|4|2後1の式を示してゐる。中者の前側部のものは後中印刻と相接してゐる場合がある。後者は第9印刻の中間にあり最も大きい。刺は全て砧性でなく第1は最小，第2と第3は略同大であるが後者の方が僅に大きい。腹楯及び刺も共に周緣には小齒がある。

體長　6.6mm（第3刺を含むと8.3mm)，同幅7.8mm（第2刺を含むと

Pl. II　　　　第二圖版



1. チブサトゲグモの♀　2. ボルネオナガトゲグモ　3. カイトゲグモの♀　4. 同前面よりの圖　5. トゲグモの♀　6. ミナミハラビロトゲグモの♀　7. アカシトゲグモの♀

9.7 mm), 腹楯長 5.0 mm (第3刺を含むと 7.0 mm)

採集地　バシラン島・アトンアトン (I. 1929), ジヤバ・ワラスカムポン (I. 25. 1930) 明石哲三氏採集。

Genus *Ateracantha* Karsch, 1879.

4. *Ateracantha hecate* (Walckenaer, 1837) アカシトゲグモ (第7圖)
〔Ins. Apt. II, p. 168〕

♀

色彩　頭胸部は暗褐色, 胸板は黒褐色地に大きな黄色斑紋を具へ, 步脚は黒褐色を呈する。腹楯は地は黃色にして第1刺の緣に1帶と後緣に沿つて1帶の黑條を具へてゐる。印刻は赤褐色をしてゐる。

標徵　腹楯は一見飛行艇を正面から見た樣でもあり, ギリシヤ神話に出て來る魔術の女神が作り出した樣な奇拔な姿をしてゐる。丁度ハラビロトゲグモの第3刺を除いた形を想像すれば間違ひは無い。前緣の中央部は截形の前曲性を呈してゐる。後緣は緩かな後曲をなし中央部は殆ど直線をなしてゐる。第1—2の印刻は僅に後曲の1橫列を作り, 第1印刻は小さい楕圓形, 第2印刻は大きく倒卵形である。第3—5の3印刻は第1刺後にあつて其の後緣を連ねる線は僅に外側下りの直線を作つてゐる。第3印刻は卵形, 第4印刻は外小內大の略三角形, 第5印刻は倒卵形にして丁度第1刺と第2刺の中間に位する。後部の印刻は緩かな後曲にして中線に近い物程小である。第6印刻は第2刺の後, 第5印刻より中線に近く位し橫長の卵形, 第7印刻は丸味のある三角形, 第8と9印刻は殆ど圓形である。中域の4印刻は梯形, 長は略最大幅に等しい。何れも略圓形, 前列印刻の中心を連ねる線は略第5印刻の後緣を連ねる線と一致する。後列印刻の中心線は第2刺の後緣の線に合する。微細印刻式は前4中2|2後2である。第1刺は短小, 第2刺は破格に太く長く外側に向き前緣は前曲, 後緣は端直である。第3刺は全然缺いてゐる。

背甲長　3.4 mm, 同幅 4.0 mm, 腹部長 5.7 mm, 同幅　15.3 mm (第2刺を含むと 26.8 mm)

採集地　ミンダナオ島・アポ山 (VII. 1. 1929), タカパン (V. 24. 1929) 明石哲三氏採集

Genus *Pachyleuracantha* Dahl, 1914.

5. *Pachyleuracantha doriae* Simon, 1877 ボルネオナガトゲグモ (第2圖)

[Ann. Soc. ent. France S. 5, V. 7, p. 232]

♀

色彩　頭胸部の各部及歩脚は黒褐色を呈する。腹楯は暗黄褐色地に前縁，中央及び第8—9印刻列の直前に各々黄色の1帯を存する。前者及後者は短く中者は長く第2刺の基部に達してゐる。

標徴　腹楯は各刺を除くと略横長の矩形，幅は長の2倍である。前縁は弱く前曲し，其の中央部は截形をなしてゐる。後縁は兩側にて後曲するのみにして殆ど大部分は端直な1線をなしてゐる。印刻は他種に比し何れも大形，特に第3—7印刻は著しい。第1と第2の4印刻を連ねる線は眞直ぐ1横列をなし，兩者とも倒卵形にして第2印刻は第1より大きい。第3—5の3印刻は1直線をなし，後者程大きい。第3は4角形にして第1刺の前に，第4は縦軸に長い略4角形にして第1刺の線に，第5は外廣內狹の4角形にして第1刺の僅に後に位する。第6—7印刻は同一線上にあり，其の中心線は第2刺の基部後縁の線に一致する。第6印刻は最大にして內狹の三角形，第7印刻は楕圓形にして第4印刻と同大である。第8—9の4印刻は同一線上にあり，略圓形にして外側のものは內側のものより僅に大きい。中域の4印刻は梯形，前列は後列の1/2大にして，横長の楕圓乃至卵形である。微細印刻式は前4中2｜3｜2後1及第3印刻と後列印刻を連ねる線上の中央にも1個有する。第1刺は第3刺より短小なるも割合に長い方にして第2齒の約1/2である。第2刺は特に細長，第I歩脚の蹠節+蹠節長に等しく，僅に前曲し後側方に向く。何れも周緣に小齒を具へてゐる。第3刺は第1刺と殆ど等長，小齒を具へてゐる。

背甲長　3.8 mm，同幅 3.7 mm，腹部長 6.5 mm，同幅 14.6 mm（第1刺を含むと 18.8 mm，第2刺を含むと 22 mm）

採集地　北ボルネオ・タワオ（1938）羽根田彌太氏。

6. *Pachyleuracantha fornicata* (Fabricius, 1793) ミナミハラビロトゲグモ（第6圖）

[Syst. Ent. II, p. 417]

♀

本種は臺灣産ハラビロトゲグモと殆ど區別され難い種である。學者に依つては同一種內の1亞種とさへ考へられてゐる位である。

色彩　頭胸部，歩脚及各刺は赤褐—黒褐色である。腹楯の地は黄色にして之

に前部印刻列を含む1帯，中域の後印刻を連ねる短い帶，第6—7印刻は太い横長斑を呈し，第8—9印刻の後半部を含む後緣に至る細い帶を作る。何れも黒色である。腹面は黒褐地に黄色の圓い小斑點を散布してゐる。

標徴　腹楯は横長の略八角形，幅は長の2倍，第1—2印刻を連ねる線は端直な一線をなし，第2—4の3印刻は後曲の弧上に位する。第3—5の印刻は僅に斜直線上にある。第3印刻は第1刺の線にあり，楕圓形，第4印刻は內小の卵形，第1刺の後に，第5印刻は第1と第2刺の中間にあり，內小の三角形，第1及2は等大，第3以下は順序に大きさを增す。第6と第7は等大の內小の略三角形，前者は第2刺の後，第5印刻より正中線に近くある。後者は前者の僅か後內側に存する。第8—9印刻列後緣近にあり僅に前曲の1横列，等大にして略圓形である。中印刻は何れも横長の卵形，4印刻は梯形である。微細印刻式は前3中2|3|2後2，他に第3と中域後印刻と連ねる線より僅に前印刻寄りに1微細印刻がある。第1刺は第3刺より僅に小さく前外方を向いてゐる。第2刺は破格に大きく弱く前曲し，末端は僅に後方を向く。第3刺は稍短大である。何れも周緣上に小齒があり，第1と第2刺間の腹楯上に小砧を密布してゐる。

背甲長　3.8 mm，同幅 3.7 mm，腹部長 5.8 mm，同幅 11 mm（第1刺を含むと 11.7 mm，第2刺を含むと 15.9 mm）

採集地　バシラン島アトンアトン（XII. 1928 — I. 1929）；ミンダナオ島シブラン（V. 31. 1930）；ジヤバ・ワテスアムボン（I. 25. 1930）明石哲三氏採集

擱筆に臨み貴重なる文獻の借覽並に御助言を賜りました岸田久吉先生に厚く感謝致します。

餘白を借りて今號の發行遲延につき申譯を致します。先づ第一に原稿の集まりが遲かつたことを考へねばなりません。愈々組版にかゝらうとしたら其の直前に「昆蟲界」第99號の組版が始まつてお預け，續いて大相撲夏場所に押出され，今度は「昆蟲界」當百號記念號の印刷を特に急ぐ爲又押出されたわけです。編輯者の怠慢ではありません。遲延を取戻さないと日本出版文化協會からお小言が來るので引續き第7卷第2號，第3號の準備にかゝり度いと念ひますから大小を論ぜず澤山御寄稿下さる樣願つて置きます。今號は遲延こそしたれ增頁を敢行して皆樣の御機嫌を取結んで居ります。

編 輯 幹 事